2017年度活動報告書　桑久保亮太

2017年は個人研究として、点光源による影のプロジェクションを行うインスタレーションを継続して制作・展示した。技術的には、複数光源による多視点からの投影を発展させた。内容的には地域やキャラクターとの関連の中で要請に応じて制作する機会が多かった。なお、展示活動等は学内外を問わず「クワクボリョウタ」名義で行なっている。

学外での活動（展示）

1　『Life of YORO!　まちの宝モノ展』（養老町高田西町安田邸、2017/5/20~22）

LOST#15（多重露光写真）撮影:山口伊生人

建築家の安田綾香氏が養老町で進めるアーティスト・イン・レジデンス・プログラム「Made in YORO!」のキックオフイベントとして養老町で250年以上続く大祭「養老高田まつり」の期間に開催された『Life of YORO! まちの宝モノ展』に参加し、作品制作・展示を行った。

展示を依頼されたのは安田邸の茶室であり、モチーフは安田邸の蔵に眠る古道具のみで構成した。
光源を備えた動力車が茶道口から入り、ひとしきり茶室内を巡ってまた去っていく。来場者はにじり口から出入りする。同時に入れるのは1~2名が限度であり、今まで試みたLOST作品中では最も小さい空間での展示となった。茶室の空間的特性によってこれまでとは違った風景感を現出することができた。

2　『Art Diving!ー作品という海へ潜ってみよう!ー』（鳥取県立博物館、2017/7/15~8/27）

鳥取県立博物館で「10番目の感傷（点・線・面）」を展示した。
会期初日にはワークショップを行った。（後述）

3　『札幌国際芸術祭2017』（円山動物園ほか、2017/8/6-10/1）

LOST#16（多重露光写真）撮影：小牧寿里

札幌国際芸術祭2017に参加し、円山動物園を展示会場に新作「LOST#16」を制作・展示した。
会場は円山動物園の中に残されたライド型アトラクション「魔境の伝説」がかつてあった建造物であり、芸術祭の観客と動物園の観客のどちらもが入場することができるように設定された。
フェンスを逆Uの字形に設け、来場者が室内の中央付近まで入ることができるようにした他、光源動力車を3台組み合わせたシーケンスを構成するなど、それまでのLOSTシリーズとは違う技術的試みを行った。
展示に使用したモチーフは札幌市内のリサイクル店で入手した品物や動物の置物を使用した。また、札幌は屋根の形状が時代とともに多様に変化しており、それらが入り混じった風景に特徴があることから、それぞれの時代・用途を代表する屋根の形をサンプリングして模型として制作・配置した。

芸術祭では本作品以外に、昨年度の『さっぽろ雪まつり』で技術協力として参加した岸野雄一氏の「札幌ループライン」再現展示も札幌市中心地のギャラリーCAI02にて行われた。

3　『未来の学校 powered by アルスエレクトロニカ　もしも展 -視点を変えてみる世界-』（東京ミッドタウン、8/18~20）

東京ミッドタウンとアルスエレクトロニカの年間共同プロジェクトとして開催された展示とワークショッププログラムに2009年に制作した「ニコダマ」と「シリフリン」作品を展示した。

4　　『ドラえもん展』（森アーツ・ギャラリー、9/10~12/18）

ドラえもんの長編映画「ドラえもん のび太のひみつ道具博物館」を題材にLOSTシリーズと同様の技法でインスタレーション「鈴と太陽」を制作・展示した。

5　　『リニューアル・オープン記念　ザ･ベスト･コレクションー丘の上の双眼鏡(前期)』（北九州市立美術館、2017/11/3~12/28）

「10番目の感傷（点・線・面）」が収蔵された北九州市立美術館の常設展で同作を展示した。

6　　『文化庁メディア芸術祭石垣島展』（石垣市民会館、ホテルエメラルドアイル石垣島、11/29~12/17）

石垣市民会館で「Vomoder」を、ホテルエメラルドアイル石垣島で「10番目の感傷（点・線・面）」を展示した。

学外での活動（講演その他）

1　　ワークショップ「光と影で風景をつくる」（7/15、鳥取県立博物館）

鳥取県立博物館での展示初日に一般を対象にワークショップを開催した。
日常的に体験している光と影の現象が、どのように自作の構成要素に変化していくかを体験してもらえるように、何段階かに分けて光・物・空間・時間を制限しながら制作と観察を行う内容で進行した。

**2　　トーク「カルチャートーク Creaters@Kamogawa」
(2017/10/21、ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川)**

第一部「光のアート」滞在制作中の美術家トビアス・ゲームデン氏との対談に出演。司会は小崎哲哉氏。
それぞれの制作を紹介するとともに、互いの立場から技術やメディアと芸術について見解を交換した。